

第一回『中岡慎太郎顕彰短歌大会』入選・入賞者氏名

一般の部

《中岡慎太郎 賞》

おばあちゃんに夢あるかなと自問する一年生の孫に問はれて  
千葉県我孫子市 柴田 文子

《中岡兼 賞》

許すとも許さざるとも言わざりき君の淋しき首筋を見る  
高知県香美市 古川 安子

《北川 賞》

老いることどこか恐れる世の中で姿勢正しく年をとりたい  
三重県津市 田中 亜紀子

《選者 賞》 井上 佳香 選

子に履かせ姑に履かせて今夫にくつ下のかたちしみじみと見る  
高知県須崎市 廣見 正子

《選者 賞》 西岡 瑠璃子 選

花ちらぬまにぞ帰れと祈りしや妻が和歌にぞこぼるる花びら  
高知県香南市 増井 はつこ

《選者 賞》 依光 ゆかり 選

慎太郎日本夜明けの夢掲げ駆け抜けし後袖が香りぬ  
高知県高知市 石川 秀子

入選作品 ☆ 一般の部 ☆

《入 選》 応募順

慎太郎龍馬ら時代駆けぬけし青葉となりぬ脱藩峠  
高知県南国市 山崎 光子

五月晴れ野根の山なみ目にあおし二十三士の足跡踏みしめながら  
高知県北川村 松本 寿雄

微妙なる時代の変化は全身で感じとるべし平成の志士  
東京都町田市 永田 吉文

百二歳末期をむかえ母は今肩で息しつつ少しまどろむ  
千葉県木更津市 根本 千恵子

ああこんなにフリルがかさなり母の日にしばられたくないカーネーションは  
千葉県船橋市 前田 えみ子

連れ添いて四十七年次の世も見つけてほしいと月夜に祈る  
高知県北川村 町田 喜代

愛してと青い地球の叫ぶ声原発やめてに耳を貸したい  
高知県安芸市 大寺 和美

船壊し漁具わけ与へ老いし海人子の街へ発つ一張羅を着て  
高知県東洋町 蛭子 泰明

中岡の像は龍馬の方を見て立てられしといふ湾は風ぐ  
福岡県春日市 小山 純子

夕ぐれを一羽はぐれて飛ぶ鳥を疎遠なる子に重ね案じる  
福岡県大野城市 泉谷 陽子

幕末の志士は健脚これからの時を一緒に駆けて行こうぜ  
高知県佐川町 市川 浩司

妻兼の歌に今なほ息づける熱き志士の名花ちりぬとも  
愛知県みよし市 穴吹 和子

木洩れ日に両手かざしてはしゃぐ児の瞳のなかの若葉がそよぐ  
高知県高知市 山脇 志津

猪除けの鉄条網に守られて列なす早苗兵士にも見ゆ  
大分県別府市 佐藤 信二

春の宵子の忘れぬしつめ草の四つ葉広げてはさむ古本  
千葉県松戸市 藤原 こずえ

## 小学生の部

### 《奨励 賞》

志士は行く 土佐を後にし 未来へと 熱き眼差し 受け継ぐ心  
東京学芸大学附属大泉小学校 石野 美宙

### 《選者 賞》

ゆず香る この地のえいゆう 慎太郎 今は亡きとも 思いはここに  
高知県安芸郡北川村 北川小学校六年 島田 杏

### 《入 選》

大いなる 広い心で ゆず広め 北川ささえた ばくまつの志士  
高知県安芸郡北川村 北川小学校六年 山下 耀

あたたかい 太陽の下 ゆずの里 この地にゆずを くれたうれしさ  
北川小学校六年 吉田 天來

おとうさん マラソン練習 さかなつり いっしょにやると えがおいっぱい  
北川小学校三年 手嶋 とも

## 中・高生の部

### 《北川 賞》

卒業の日はいつか来る だからこそ くだらない話 たくさんしよう  
福岡県 修猷館高等学校 雪吉 千春

### 《選者 賞》

ただいまと 帰ってきたら おかえりと 返してくれる そのあたたかさ  
高知県安田町立 安田中学校 中野 友駕

### 《入 選》

夢だけど あきらめたくない 簡単に 賞味期限は そこにないから  
愛知県クラーク記念国際高等学校 本谷

幼き日 別れた猫の 影は消え されど心は いつもあたたか  
高知県立岡豊高等学校 影嶋 勇太郎

また今度 そう言ったのに もう会えず 最後に見たのは 貴方の涙  
高知県安芸市立安芸中学校 齋藤 千晴

君想い 枕を濡らす 長雨に 庭の紫陽花 青に染まりぬ  
高知県立岡豊高等学校 大家 朱理

いつもいる 家族の姿が 今はなし ひとりほろりと なみだを流し  
高知県安芸市立安芸中学校 宗圓 このみ

梅雨来ては 毎日続く 雨の中 あなたとふたり かさの下にて  
高知県立岡豊高等学校 矢野志織